

2022 年度 DOS 実施要項

文責：競技委員長 田中 碩彦

2022 年 3 月 21 日

I. 会場に行く前に

① 服装

基本的に正装(学生服またはブレザー)を着用する。自分の試合が担当する試合の前後にある場合、ユニフォームの上からでも構わない。また、荒天時は正装の上から防寒着・防水着を着用しても可とする。

② 持ち物

- ・全日本アーチェリー連盟競技規則(2021～2022 年)
- ・関西学生アーチェリー連盟内規(2022 年度)
- ・2022 年度関西学生アーチェリー連盟リーグ戦申し合わせ事項
- ・DOS 実施要項(2022 年度版)
- ・リーグ戦 Q&A 集
- ・筆記用具(黒、赤ボールペン、メモ用紙)
- ・ルーペ
- ・ストップウォッチ

II. 試合開始前

① 会場に到着したら

- ・レンジ校と協力して的を貼る。全部の的が貼れたら少し後方から全体を見て、全ての標的面が同じ高さになっているかをチェックする。
- ・畳の強度は十分かどうかもチェックする。もし貫通の恐れのある場合は、レンジ校に交換、もしくはその対策をさせる。
- ・S.L、3M.L、W.L がはっきり分かる(切れていない)かを確認する。
- ・その他、行射に支障がないかを確認する。

② 試合に必要な備品の確認

- ・ストップウォッチ(必ず正常に作動するかを確認しておく)
- ・ホイッスル
- ・三色旗
- ・レッドカード
- ・得点記録掲示板
- ・記録用長机
- ・記録用椅子
- ・DOS、審判員用椅子
- ・メンバー表

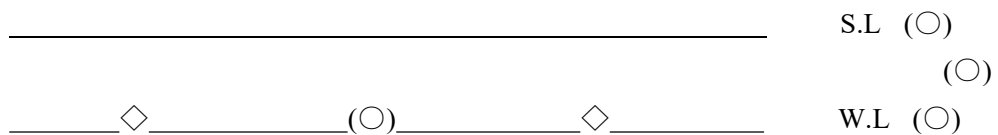
- ・スコアカード(人数分+予備)
- ・速報用紙(記録用紙)
- ・選手交代届
- ・標的面(標的数+予備)

※スコアカード、速報用紙(記録用紙)、メンバー表、選手交代届の予備はレンジ校にまとめて配布してあります。

※レンジ校の AED 設置場所を必ず把握しておいて下さい。

※DOS、審判員の配置に関しては、以下を参照して下さい。

○ : DOS ◇ : 審判員



レンジの広さの関係上、DOS と選手の距離があまりにも近くなる場合は、安全のため上記の()の位置に DOS を配置しても構わない。

③ メンバー表、スコアカード、速報用紙(記録用紙)、選手交代届の枚数を確認して各校代表者と記録に渡せるように準備する。

④ 試合開始 20 分前になったら、各校代表者と記録を集合させる。メンバー表、スコアカード、速報用紙(記録用紙)、選手交代届を各校代表者と記録に渡し、それぞれの枚数を確認してもらう。

III. 開会式

① 試合開始 10 分前になったら、会場全体に聞こえるようにホイッスルを一声鳴らし集合をかける。体操や円陣のタイミングを見て多少は前後しても構わない。

DOS 「集合して下さい。ただいまより、〇〇大学対〇〇大学のリーグ戦第〇戦を行います。」

ここで、メンバー表の記載漏れなどがいないかを確認し、もし記載漏れなど不備があればその場で訂正させる。このとき補欠選手欄が未記入の場合は、以後の選手の交代は認めない。その場で代表者がサインをし、DOS に渡す。

② DOS はメンバー表を審判員に渡し、服装検査、弓具検査を行う。これは補欠選手も対象である。

DOS 「服装検査を行います。全員後ろを向いて下さい。」

DOS は全員が見渡せる位置まで前に出て、大学名が記載されているか、チームのユニフォームが統一されているかをチェックする。服装検査終了後、

DOS 「戻って下さい。続いて、弓具検査を行います。」

審判員はメンバー表の的番と名前を確認して弓具検査を行う。弓具検査時に遅刻者がいる場合、正当と思われる理由がなければ参加を認めない。このとき、補欠選手の弓具検査と監督、コーチの確認も忘れずにする。弓具検査終了後、競技説明を行う。

DOS「この試合は1エンドごとに3射ずつ行射し制限時間は2分間とします。弦切れ、リム折れ等弓具破損に関しましては、残り矢1本につき40秒が与えられ、補充矢の行射を行い、補充矢の行射時間は最大15分間とします。フリー練習は制限時間を4分間とし、1回のみ行います。補欠選手のフリー練習は同チームのどの的を使用しても構いません。選手の交代を行う場合は、競技開始前もしくは各エンドの行射終了から次のエンドの開始までに代表者がDOS及び記録に選手交代届を提出して下さい。また、選手の方は的中孔チェックを必ず行うようにして下さい。その他に関しましては、全日本アーチェリー連盟競技規則、関西学生アーチェリー連盟リーグ戦規定及び申し合わせ事項によって行います。この試合のDOSは、私〇〇大学〇〇、審判員は〇〇大学〇〇で行います。ただいまより5分後の〇時〇分より競技を開始しますので、選手はW.L付近に整列しておいて下さい。それでは、解散して下さい。」

開始時間は5,10分単位で設定する。

IV. 競技の進行

① フリー練習

時間になったら、会場全体の安全を確認して起立し、最初は赤旗を上げる。ホイッスルを2声鳴らす。(ムーブアップの合図)

DOS「〇〇大学、フリー練習」

選手がS.Lに入るのを確認(この間は約10秒)し、ホイッスルを1声鳴らす。(行射開始の合図)

これと同時に赤旗を緑旗に変えて着席する。旗は膝の上に横向きに置く。30秒前になったら緑旗を黄旗に変えて起立し、正面に水平に持つ。DOSは10秒前になったら口頭でカウントダウンを行い、ホイッスルを3声鳴らす。(矢取りの合図)

カウントダウンの途中でも、全員の行射終了を確認したら、2分になっていなくてもホイッスルを3声鳴らし、同時に黄旗を赤旗に変える。

フリー練習での時間外発射はひどいものではない限り注意にとどめ、点数的なペナルティーは与えない。

② 競技開始

フリー練習後、ホイッスルを2声鳴らす。

DOS「〇〇大学、50m1回目」

ホイッスルを1声鳴らし、同時に赤旗を緑旗に変えて着席する。30秒前になったら緑旗を黄旗に変えて起立し、正面に水平に持つ。

30秒前に気づかずに時間が過ぎた場合は、その時点から黄旗を上げて30秒を計測する。

DOSは10秒前になったら口頭でカウントダウンを行い、ホイッスルを3声鳴らす。カウントダウンの途中でも、全員の行射終了を確認したら、2分になっていなくてもホイッスルを3声鳴らし、同時に黄旗を赤旗に変える。

審判員とともに標的面に速やかに移動し、採点を監督する。DOS、審判員の採点中の立ち位置は、標的面から3～5m後方である。

採点が終了したら標的面をチェックする。このとき、的中孔チェックの確認はしなくてもよい。これを繰り返し、50m終了後、10分程度の休憩を取る。

DOS「ただいまより約10分間の休憩を取ります。〇時〇分より競技を再開しますので、それまでに選手はW.L付近に整列しておいて下さい。」

こちら、開始時間は5,10分単位で設定する。

V. 試合終了

- ① スコアカードを回収する。受け取る際に必ず選手サイン、採点者サイン(LINEによる同的との採点の場合は不要)、訂正サインなどの漏れがないか、10点数及びX数も全て記載されているかを確認する。
- ② 審判員と手分けしてスコアカードの承認(得点計算チェック)を行う。この承認作業によって記録が最終確定となるので、慎重に行うこと。計算間違いがあった場合は、当該選手と採点者を呼び出し、確認して訂正させる。
- ③ 記録集計に立ち会い、スコアカードと速報用紙(記録用紙)の得点を確認し、勝敗の確認をする。
- ④ 確認後、代表者を呼び速報用紙(記録用紙)の確認をしてもらい、サインをさせる。このサインによって団体得点、個人得点ともに最終確定となる。
- ⑤ 成績発表を行う。

DOS「集合して下さい。ただいまより点数発表を行います。〇〇大学〇点、〇〇大学〇点、よて、〇〇大学の勝ちとします。両校挨拶。解散して下さい。」

VI. もしものときの対処法

① 弓具破損

弓具破損の判定は近くの審判員が対応に当たる。弓具破損はその選手の弓の通常の状態でなくなった場合に、修理の時間を与える。基本的に弓本体に関するトラブルは概ね認める。ただし、スタビライザーやサイトの単純な緩みなど、1~2秒で解決するものは認められない。メガネ、コンタクトレンズのトラブルなど、安全な行射が不可能となる場合は、修理、交換の時間を与える。

② 標的面のトラブル

(i) 垂れ矢(ぶら下がり矢)

垂れ矢が発生した標的面のみ中断させ、そのチームの他の選手の行射を完了させる。

審判員はその標的の選手と採点相手とともにその標的面に進み採点を行い、審判員が自分のメモなどに全ての得点を記録する。その後、垂れ矢のみを抜いて的後方もしくは的の下に置く。

標的面で垂れ矢の得点を確認する前に何らかの理由で垂れ矢が落ちてしまった場合、的中孔により判断する。S.Lに戻り、残り矢1本につき40秒で補充矢の行射を行う。採点の際は審判員が立ち会い、メモした得点と残り矢を高得点順に記入する。

(ii) 跳ね返り矢

跳ね返り矢が発生した場合、行射を中断せずにそのチームの行射を終了させる。該当選手も3射完射させる。審判員はその標的の選手と採点相手とともにその標的面に進み採点を行う。印のない的中孔が1つだけの場合、その的中孔の得点とする。また、印のない的中孔が2つ以上ある場合、最低得点帯にある印のない的中孔の得点を記録とする。

(iii) 貫通矢

跳ね返り矢と同様に処理する。標的面からは見えないが畳に矢が残っている場合は、審判員が矢を引き戻してシャフトの位置で得点の判定を行う。その後、競技の進行に差し支えない程度に貫通矢対策を行う。また、必ず貫通矢が起こったことを報告書に記載しておく。

③ 残り矢の行射について

弓具破損や垂れ矢などのトラブルがあり、残り矢を行射する場合、1本につき40秒の時間が与えられる。手順は以下の通りである。

- ・弓具破損のあった選手をS.Lから下げて、弓具の修理に当たらせる。
- ・修理の時間は原則として4分間とする。あまりにも時間がかかる場合(4分間は必ず確保する)は、該当選手に確認の上、その行射を放棄したものとする。
- ・2分経過または全員の行射が終了した時点で、行射終了のホイッスルを2声鳴らす。垂れ矢の場合は、得点の確認を行う。

DOS「弓具破損(垂れ矢)のため、残り矢1本を40秒の制限時間で補充矢の行射を行います。」

※残り矢2本の場合は1分20秒、3本の場合は2分と言い換える。

- ・該当選手が修理を終え準備ができたなら、ホイッスル1声を吹き、残り矢の行射を開始する。
- ・通常の行射と同様、ホイッスル1声と同時に緑旗を置き、30秒前になったら緑旗を黄旗に変えて起立する。10秒前になったらカウントダウンを行う。制限時間の終了または行射が終了したらホイッスル3声を吹き、採点と矢取りを行う。

④ 全体の行射が終了した場合

標的の後ろを人が通ったなど会場全体の安全が確保できなくなった場合などは全体の行射を中断する。この場合、射ち残している矢の数が最も多い選手を基準にして、1本につき40秒の時間を与える。例えば、残り矢2本の選手が1人でもいる場合は1分20秒、3本の場合は2分となる。

⑤ タイムアウトについて

各チームの代表者からの申請により、タイムアウトを取ることができる。ただし、各チーム1回のみである。申請がある場合、

DOS「〇〇大学、4分間のタイムアウト」

宣告と同時に4分間の計測を開始する。4分間の時間経過もしくはタイムアウトの終了を確認して、競技の進行を再開する。

⑥ 選手交代について

選手交代は代表者が選手交代届をDOSと記録席に提出することによって申請する。申請ができるのは競技開始前、もしくは各エンドの行射終了から次のエンドの開始までとする。申請があった場合、DOSは選手交代届とメンバー表を照合する。選手交代が適正であることを確認後、

DOS「〇〇大学〇的の〇〇選手、〇m〇回目より〇〇選手と交代します。」

と宣言し競技を再開する。このとき、フリー練習は行わない。選手交代したエンドの採点時、DOSは交代選手の標的の採点に立ち会い、スコアカードの交代が行われた位置をはっきりと記入する。交代後の選手の名前を選手欄に記入させる。

⑦ 警告、退場について

故意に規則に反する行為、もしくは明らかにマナー違反と思われる行為に対しては警告を与える。警告が度重なる場合、退場処分とすることができる。警告は2回目で退場とするのが妥当である。退場処分については宣告する前に必ず大会競技委員長(1級審判員)、もしくは学生役員の大会競技委員長に連絡し、確認を取ること。

VII. 試合終了後(重要)

試合終了後すぐに DOS は記録用紙の写真を左側と右側に分けて撮り、関西学連 62 代記録委員長のメールアドレス(hwszk961105@gmail.com)まで送信して下さい。メール内容に関しては、HP にアップされている「記録について 2022 年リーグ戦 改訂版」を参照して下さい。

また、選手のスコアカード、記録用紙などの資料を確認して封筒に戻し入れ、保管して下さい。今回は、リーグ戦第 5 戦終了までの期間、各校の責任で全ての資料を管理していただきます。そのため、紛失しないよう徹底した管理をお願い致します。

助言・応援に関して

- ① 本大会ではオリンピックラウンドに準じた形で S.L 上にいるかいないかに関わらず、選手同士は助言することができる。
- ② 不正な手段でチームに有益になるような行為、もしくは試合の秩序を乱すような行為がなされた場合、DOS はチームに対して警告を与えることができる。これが繰り返し行われた場合は、DOS からの報告により翌日の学生役員会にて協議し、該当校の失格を決定することができる。

※2022 年 3 月 19 日の学生役員会において、内規の改定が可決されたため、以下の条文が廃止されることとなりました。

「応援は選手が S.L 上にいるときは口頭またはその他の方法で助言や情報を与えてはならない。ただし、弓の重大な以上を告げる場合は除く。」

監督・コーチに関して

- ① 監督・コーチはメンバー表に記載された 1 名のみで、試合中に変更や交代をすることはできない。また、監督・コーチは学生でもよい。
- ② 監督・コーチはアーチェリー競技に参加するのにふさわしい服装、もしくは正装とし、靴は運動靴とする。
- ③ 男子 1~8 的、女子 1~5 的までの S.L から W.L までの間をコーチエリアとする。
- ④ コーチエリアからのみ選手に助言することができる。
- ⑤ S.L 上の選手や弓具に触れてはならない。
- ⑥ 上記の規則に反する行為、もしくは試合の秩序を乱すような行為がなされた場合、DOS は警告を与えることができる。これが繰り返し行われた場合は、競技場からの退場を宣告することができる。退場処分については宣告する前に必ず大会競技委員長(1級審判員)、もしくは学生役員の大会競技委員長に連絡し確認を取ること。

審判員実施要項

1. 弓具検査

① メンバー表の名前と本人が一致しているかどうかの確認をする。もし間違っていたら代表者立ち会いのもとにメンバー表の訂正を行う。

② バッジの確認

③ 弓具

・サイト

ダブルサイトになっていないかどうか、照準点が2点以上ないかどうか。

・弦

付着物が鼻より高い位置に付いていないかどうか。また、この付着物がノッキングポイントを除いて2個以上付いていないかどうか。

・ハンドル

レストより高い位置に故意に付けた傷や付着物がないかどうか。

・矢

シャフト、ノック、ヴェインの色の組み合わせが統一されているかどうか。ただし、経年効果による変色は可とする。また、シャフトに名前またはイニシャルが入っているかどうか。

その他、予備の弓具は検査時だけではなく、選手の要請があれば随時検査を行う。

2. 行射中

① 行射中はDOSと同期して旗の上げ下げを行う。30秒前になったら緑旗を黄旗に変えて起立し、正面に水平に持つ。このとき、使用しない旗はできるだけ見えないようにすること。DOSは30秒前の警告を口頭で行わないので、審判員は旗の出し忘れのないように気をつけること。

② 行射終了から次回開始まで赤旗を上げる。

③ DOS、審判員は共にストップウォッチを携帯し、時間管理を行う。DOSのストップウォッチが何らかの理由で停止した場合、審判員のストップウォッチで時間管理を行う。

④ 時間外発射の管理

時間外発射は直近の審判員がこれを判定する。DOSの制限時間終了のホイッスルを聞いてその音の鳴り始めより遅く矢が発射された場合は時間外発射となる。これが発生した場合、審判員はレッドカードを掲げて選手本人と周囲の関係者に通告する。口頭でも選手本人に通告し、その後の得点記録にも立ち会う。

⑤ 弓具破損などの選手からのアピールに対して対応する。これについては、上記VI. もしものときの対処法①を参照のこと。

⑥ 弓具検査を行っていない弓具を随時検査する。また、選手の弓具の修理に立ち会う。

3. 得点記録

- ① 採点のとき、赤旗は椅子の上に置いて的前に行き、選手からの矢の判定のアピールに備える。矢の判定を行う場合は、矢や標的及び周りの畳などは触れず、必ずルーペを使用して判定すること。
- ② 時間外発射が発生した場合、まず採点者に標的面上の3本の矢の得点を記入させ、その後、審判員が赤ペンを用いて2重線でその得点を消去し、最高点を削除した点数を記入しサインする。
- ③ 採点終了後、矢の抜き忘れがないか、的に破損がないか、畳が大丈夫かどうかを確認する。

DOS・審判員としての心得

1. 競技規則を十分に理解する。
2. 競技会の成功は競技役員各パートの協力が不可欠である。審判員はその運営の重大な役目を果たすものである。従って、良識と知識と協調性を要する。
3. 競技会の主役は競技者である。審判員(競技役員)は競技会の主役ではなく、運営機能の一部である。
4. 審判員は競技者を取り締まるためにいるのではなく、競技会を円滑に進めるために存在する。
5. 常に競技者が最大の力を発揮できるように運営を円滑に行う。
6. 心を広く持ち、常に広い視野で状況を把握して、冷静に公平な判断を下す。
7. 不確実な判定をせず、判断に迷った場合は他の審判員や競技役員とよく相談し、正確かつ説得力のある判断を下す。
8. 疑わしい行為があっても競技規則の適用において明確な理由がない場合は、競技者が有利になるように裁定する。
9. 不正を行う競技者に対しては妥協せず、無視してはならない。
10. 競技者が競技規則を知らないために起こるだろう違反に対しては、事前に注意して規則違反や事故を未然に防ぐ努力をする。
11. 審判員はいかなるチーム(団体)にも属さない中立な立場である。従って、任務中はもちろん休憩中でも特定の選手と親しく話をしたり無駄な会話はしない。
12. 行射中は安全上の問題以外、競技者に直接話しかけず、必要ならばチームの監督(責任者)にまず知らせる。

13. 品位を持って行動し、競技者やチームの監督等に高圧的な態度をとらない。